



修学旅行京都編 世界から愛される千年の都

修学旅行2日目。子供たちの無事を願い、早朝より子供たちの宿泊地に隣接する知恩院を参拝しました。参道を登っていき振り返ると、宿泊地の遥か向こうの山並みには雲海が見えて、何とも言えない清々しい気持ちになりました。



最初の目的地は清水寺。朝の散歩のような感じで円山公園の紅葉を見たり、二年坂、三年坂の趣深い店舗が並ぶ町並みを歩いたりしたことで、自然と足取りが軽くなりました。途中ですれ違う地元の方からは「ようこそ京都へお越しやす」と声をかけていただいたり、開店を待つたくさんの方の外国人観光客と挨拶を交わしたりしながら、全世界の人の心の温かさを感じました。



清水寺では、世界から愛される千年の都である京都の町並みを一望して大感動。また、釘を1本も使わずに組み上げた12mにも及ぶ巨大な檜の柱からなる「清水の舞台」に子供たちも心を奪われていました。さらに、今年は音羽



の滝で水を飲むことができ、自分の願いが叶うように、笑顔いっぱい水飲む姿が微笑ましく感じました。その後、子供たちは、旅行前に計画したお土産リストを参考に、プレゼントする人を思い描きながら、たくさんのお土産を買いました。



続いての目的地は三十三間堂。1001体の千手観音像（内、中央の1体は千手観音坐像）が120mの本堂の中に立ち並ぶ様は圧巻でした。子供たちはバスガイドさんから出題された仏像を見つけようと、一体一体目を凝らして見つめ、見つかったときは大喜びでした。



引き続き訪れたのは、修学旅行目的地の定番である二条城。岡崎ゆかりの江戸幕府初代将軍徳川家康が、天皇の住む京都御所の守護と将軍上洛（京都へ行くこと）の際の宿泊所とするために築城したものです。子供たちは、豪華絢爛な彫刻や障壁画に見入っていました。また、歩くたびに音が鳴る「鶯張り（うぐいすばり）」の廊下を踏みしめ、防犯対策の音に耳を傾けるとともに、音が鳴る秘密を学びました。



午前中最後に訪れたのは北野天満宮。菅原道真公を御祭神としておまつりする全国の天満宮、天神社の総本社です。子供たちは勉強ができるようにお参りしたり、撫で牛を夢中で触って御利益を得たりしていました。



修学旅行最後の見学地は金閣寺。正式名称は鹿苑寺（ろくおんじ）です。子供たちは、黄金に輝く舍利殿に見とれるだけでなく、タブレットで写真を撮りながら、金閣寺の歴史について学びを深めました。

以上、1泊2日の奈良・京都の修学旅行は、マナーやルールを守り、お互いを思いやる素晴らしい旅行となりました。帰りのバスでは、ガイドさんから、「普段の生活から、周りを見て、声をかけあって、進んで行動できる素晴らしい6年生ですね」とお褒めの言葉をいただき、さすが常磐小の最高学年だと感じました。ありがとう。